

『K式乳幼児発達検査』による検査報告

清原 浩・西原 律子*

A Report on Test Scores of Baby-Infant Developmental Scale
of Kyoto-Jidoin

Hiroshi KIYOHARA and Ritsuko NISHIHARA*

I 問 題

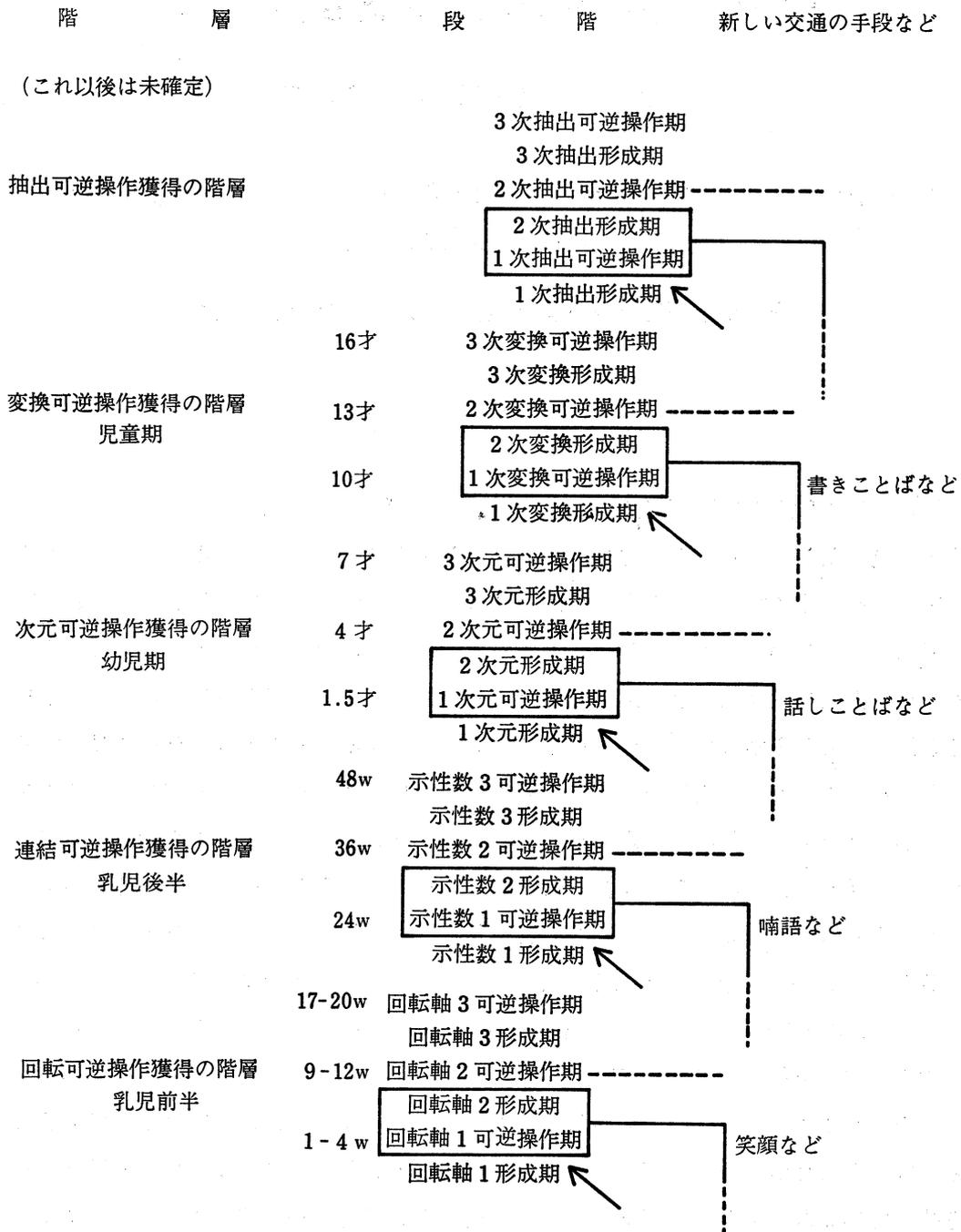
1. 田中昌人の発達研究とK式検査

従来子どもの絶えまない変化の過程を、何らかの発達段階として把握することに、多くの研究がなされて来ている。生まれてすぐの全く受動的なヒトから一個の主体的・能動的人間として成長して行くまでに、いったいどのような変化が人間の内に起こるのかということは実に興味深いことである。子どもの発達を段階的にとらえることは、子どもの変化の様相の中に、多くの子どもたちの中に、ある段階内で何らかの共通性が存在していることを知ることであり、そこにひとつの発達段階が構成されるのである。発達段階区分には身体的発育を基準とするものと、心理的発達を基準にしたもの、心的特徴を統合的にとらえようとするものがある。しかし身体的発達は、単に大きくなるという肉体的量的増大をいうのでは決してない。それは、神経系と筋肉系の一連の発達の結果であり、精神的発達の方も大脳と中枢神経系の関連した発達を軸として生じて来る高度な精神活動を示しているのである(注1)。多くの発達研究を見て一貫しているのが年齢区分(注2)の点であり、1-2才、3-4才、7-8才を質的転換期としている。京都大学の田中昌人は1976年に『個人の系における発達の質的転換期』を提示している(表1)。

発達段階の決定については、発達の諸領域における行動の変化が、何に起因し、何を契機とし、何によって獲得されたか、簡単に断定できないので先行する発達の諸領域が次の段階といかなる結びつきを持っているかは推測にとどまる。しかし発達の力動的関係は認識でき、これにより、発達の諸要素間のつながりと、次の段階への見通しは出きるようである。発達段階を決定していく上で、大切なことは、発達の諸要素の変化(結果)にだけ注目すべきではないということである。その変化をもたらした原因とそれのもつ意味を調べる必要がある。単に量的変化を発達として見るべきではなく、個人の内に生じた質的变化に気づき、次の段階への展望を考えていかなければならないのである。これを発達の中核として扱っているのが、田中昌人らの研究なのである。田中らは、発達

* 県立武岡台養護学校非常勤講師(訪問教師)

表 1



(これ以前は未確定)

- ※ 1 出生以前には、卵体期の階層、胎芽期の階層、胎児期の階層、がある。
- ※ 2 受精以前の卵母細胞から卵娘細胞に至る過程には、等数分裂を行う階層、妊娠4カ月より生後思春期までの第1成熟分裂でとどまっているディクティオテン期の階層、卵細胞形成以後の第2成熟分裂をして卵娘細胞に至る階層がある。
- ※ 3 進化の階層としては、三葉虫の階層、魚類の階層、両棲類の階層が、さらに爬虫類の階層、哺乳類の階層、霊長類の階層が、霊長類には原猿の階層、真猿の階層、類人猿の階層が、さらに猿人の階層、旧人の階層が、そして新人がある。

の中核機制を可逆操作特性として抽出し^(注3)、可逆操作特性を乳児前半期・乳児後半期、幼児期、児童期、青年期の各段階ごとに、回転可逆操作期、連結可逆操作期・次元可逆操作期・変換可逆操作期、抽出可逆操作期として区分していった。これは発達段階と呼ばれ、ヴィゴツキー^(注4)のいう「時代」に相当する。それぞれの階層は三つの発達の質的転換期をもつとしている^(注5)。可逆操作特性は、各発達の諸活動が含んでいる統一的な行動特性を表わしていると京都府立大学の長嶋瑞穂は加えている。

今まで、田中昌人らは、乳幼児と精神薄弱児の発達を統一的に捉えようと精力的に試みてきている。田中らの研究の根本は、子どもの発達の現象の中に潜在している法則性を唯物弁証法的な視点のもとに捉えなおそうとするものであり、ゲゼル、ピアジェ、ワロン、更にソビエト心理学などの先行研究をふまえた上で、先に述べたような独創的とも大胆ともいえる発達の構造を生み出したわけである。我々は不十分ながら田中らの研究に学びそれに依拠しながら、ここ数年、精神薄弱児について発達段階の診断を行い、それに基づいて、保育・教育の方法の模索を続けて来た。田中が、この独創的な発達段階を提示するに当たって、直接的な手がかりとなったのが、京都児童院が標準化した「K式乳幼児発達検査」(以下K式検査と略す)であったと思われる。K式検査が、発達の現象を把握する方法とすれば、それによって明らかにされた事実を基礎に現象の中に存在する法則性を明らかにしようとしているのが、田中昌人らといえよう。そこで我々も具体的に、子どもの発達段階を知るために、K式検査を手がかりに使用していくことにした。

2. 他の発達検査とK式について

乳幼児の発達検査法としては、一般的によく使われるものとしては、次のようなものがある。①牛島義友他「乳幼児精神発達検査法」(愛研式乳幼児検査法ともいわれている)②遠城寺宗徳「乳幼児分析的発達検査法」③牛島義友他「幼児総合精神検査」④津守真他「乳幼児精神発達診断法0～3才まで」「同3～7才まで」また⑤古賀行義編「MCC ベビーテスト」最近では⑥「デンバーテスト」或いは、訳本のある⑦ゲゼル他「発達診断学」などである。また知能検査法である⑧「田中ビネー」⑨「鈴木ビネー」或いは⑩WISCなども発達検査法と近い関係にあるといえる。我々が、その全てに通じているとはいえないが、それらの諸検査法と比較して、K式検査法の特徴と思われる点を述べてみることにする。

第1に、0才児の発達診断において、尺度が極めて細かいということである。一才未満を13期に区分しており、生後0～5週の新児から検査の対象になるのである。その検査項目についても次のようである。各期ごとにM(movement)-運動性検査では、仰臥位・座位・立及歩・伏臥位の状態から検査を行い、A(adaptation)-適応性検査では、仰臥位における、目と手の動き、環の注視、ガラガラ、鐘鳴への反応、積木とコップ、瓶と小鈴、紐つき環、ハメ板などを使って目と手の協応動作、手の働きの分化等、器具への反応の様子をつぶさに検査できるようになっている。S(socialization)-社会性検査では、鏡に対しての反応や、对人的行動、食事、遊戯の点について診断され

ていくのである。もちろん遠城寺式も、運動・社会性・言語の分野を更に、移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解と細かく分けて検査しているが、充分すぎることはいないようである。牛島式の検査でも0才児の検査についてみると、不十分という点も感じるのである。K式検査のように、尺度が細かいということは、障害が非常に重く、極微の発達を示す障害児の発達の姿を解明する手がかりを与えてくれると思うのである。

第2に、新生児段階の子どもに対しても、直接子どもに試行する点が特徴といえよう。津守式のような質問紙法をとるものと異なる。子どもを取り巻く人々の日常を通しての観察を尊重しつつも、検査者が直接、子どもの状態に触れることは大事なことであると思われる。

第3に、便宜上、全検査項目を試行しなくとも当該児童の状態に合わせて検査し、当該児童の発達を直接診断できる点があげられる。ビネー・WISCなどの知能検査法と異なる。後者は指数を出すことに意味があるが、前者は、発達段階を直接診断できるので、保育・教育へのとりくみを方向づけることができるのである。そして発達の最近接領域を推定できるのである。発達の過程で重要なポイントに発達の原動力となるべき中核機制を可逆操作特性として見ていることは、先にも述べた。現在子どもが、どういう発達の様相を呈しているかという発達の最近接領域は、教育や保育の多くの取り組みの中で発達の中核機制となりうるのである。これは発達の源泉と原動力の関係としてとりあげ^(注6)、源泉が原動力によって内在化されることで、次の源泉を呼びおこし新たな原動力に転化していくという非常に弁証法的な構造なのである。

第4に、所定の器具さえあれば、どこでも短時間に、容易に検査できるという点も特徴であろう。

第5に、手の運動を軸として、遠城寺式とK式検査の内容を一部比較してみると次のようである。

(1) 手の運動をとって見ると、共通した検査項目も多いが、1才未満の検査内容としてはK式検査の方が細かに段階を追っているようである。例えば、ガラガラに対して単に振り鳴らすのは、4カ月児というのではなく、振り鳴らすようになっていくステップが診断できるのである。積木の把握にしても、7カ月児で指尖把握が獲得されるまでに、14~17週の積木と手の交互注視に始まり、22~25週の掌把握という段階がそれ以前に見られることは、検査者の深い観察力さえあれば正しく、診断できることである。

(2) 可逆操作特性が検査の過程で随所に見られる。コップと積木(小鈴)では、遠城寺式では、1才で取り出せるというのに対して、K式検査の中では、34~37週で積木をコップに押しつけはじめ、42~45週で取り出すことが獲得され、50~53週で、コップの中に積木を入れることができるというのである。単に取り出すことより、可逆した「出入」の行動獲得によって初めてコップと積木の間を認識し、操作できるというのである。

(3) 単に手の運動だけでなく、目の働きが手の動きに並行している点など、K式検査の方が一層観察しやすいと思われる。紐つき環の場合もそうである。先ず環を認め、最後に紐でぶら下げるまでに、目の前の対象物に対して、被験者の位置関係・因果関係への洞察力まで診断できるわけである。

	遠城寺式	K 式
	年・月	週
1. 手にふれたものをつかむ	0:0	0~5W
2. 手を口に持って行ってしゃぶる	0:1	
3. 頬にふれたものをとろうとして手を動かす	0:2	6~9W 10~13W
4. おもちゃをつかんでいる	0:3	14~17W
5. ガラガラを振る	0:4	18~21W
6. 手を出してもものをつかむ	0:5	22~25W
7. おもちゃを一方の手から他方に持ちかえる	0:6	26~29W
8. 親指と人さし指でつかもうとする	0:7	30~33W
9. おもちゃのたいこをたたく	0:8	34~37W
10. びんのふたをあけたりしめたりする	0:9	38~41W
11. おもちゃの車を手で走らせる	0:10	42~45W
12. なぐり書きをする	0:11	46~49W
13. コップの中の小粒を取り出そうとする	1:0	50~53W
14. 積木を二つ重ねる	1:2	54~66W 1:0~1:2 +(29) 67~79W 1:3~1:5 +(29)

(4) 遠城寺式と K 式検査を比べてみて、大きく違った点をあげるならば、検査⑬の 1:0 が一方では、42~45 週で獲得されること、検査⑫の 0:11 が 1:5+(29) となっている点である。詳しく見てみると少しずつ発達年令にも差があるようである。もちろん、全項目を比較したわけではない。

(5) 段階をひとつずつ追った K 式検査の方が発達の層化現象が大きく見られる障害児の発達診断として使用価値があるように思われる。更に田中昌人らの発達の階層の区分もこの K 式検査を通して改めて認識されるようである。

以上特徴点を述べたが、他の検査法と相違点よりも共通点の方が多きことも指摘しておかねばならない。それは前述した各検査法がゲゼルの発達研究、ビューラーとヘッツァの小児検査法、ビネーの知能検査を改訂した鈴木ビネー法などをつき合わせてモデルとし、日本の乳幼児に合わせて標準化したものだからである。MCC ベビーテストは、キャテルの乳幼児知能尺度に依拠し、標準

化したものであるが、基本的には同系統のものと思われる。

3. 問題意識

我々は、田中昌人らに学んで子どもの発達を唯物弁証法的な観点から捉えたいという視点、さらに発達診断に基づき障害児保育・教育方法を確立したいという目的をもち続けてきた。必然的に、前提的な手続きとして K 式検査法によって必要に応じて検査を行って来た。

しかし、この検査法についての手引きはあるものの、検査法自体の研究、とくにその検査法の妥当性と信頼度について述べた論文等を見ることはなかった。我々の直接目に触れたものは、わずかに、田中昌人・村井潤一らが中心となってまとめた「精神薄弱児用テストの作成—第3報告・第4報告」(滋賀県立近江学園出版1960)と生沢雅夫「知能発達の基本構造」(風間書房1976)だけであった。一方、K式発達検査を行うなかから、検査項目によっては、極端に通過率の悪いもの(例は後述)または現在の子どもを取り巻く状況に合わなくなったと思われるもの(例えば、本質的問題ではないが「絵単語II」において提示される絵の中に下駄があることに、象徴されるように)があることが判明した。

そこで K 式検査の妥当性、信頼度について再度確認する必要性を感じたのであった。

もとより、何度も述べているように障害児教育方法学確立の一過程としての研究であって今回は不備な点だらけであるが検査結果をそのまま発表し、次回には一層、考察を精密なものにしていきたい。

II 方 法

1. 検査チームの編成及び被験者数

K式検査法は新生児期を含めて0才児期を14期、1才より14才未満までを18期、計32期に分けて発達を検査している。その内0才児期と1才児期の境界線をなす14期と15期は年令においては、だぶっているが、ともに行い結果の良い方を採用することになっている。鹿児島大学教育学部障害児教育学研究室に学ぶ4年生8名を2名1組で4班に編成し、第1期作業として最も検査しやすいと思われる17期から28期(1才6カ月～7才未満)の計12期を各班が3期ずつ分担して検査を行った。各期10名ずつ(ただし、どうしても検査に応じなかったり、途中でどうしてもやらなかった子どもは資料から除外し、全項目に応じた子どものみである)行い、全期で120名以上検査を行った。また学生の他に同研究室で共同研究をすすめている発達保障研究会メンバーによって、15期から30期まで各期10名ずつ(ただし検査結果が正しく得られず10名に満たない期は、今回は検査結果処理上省いた)行い、学生の分を加え、各期10名ないし20名ずつとし検査総数は260名になっている。次に第2期作業として、同じく学生と発達保障研究会メンバーによって0才児を3期から13期まで(10～53w)同じように分担して検査を行っていった。0才児は全部で110名になっている。0才児から9才未満まで被験者総数は合計で380名にわたっている。

2. 検査場所と検査期間

被験児は、乳児院、保育園、幼稚園、小学生および在宅児で一応障害児は含まれていないことになっている。また保健所などを訪れる各家庭の子どもたちにも検査に参加してもらっていった。検査場所は、乳児院・公立保育園・無認可保育園・附属幼稚園・附属小学校・市立幼稚園・市立小学校・協力してくれた各家庭で、その空室を利用して行った。

検査に先だち、学生たちが、K式検査法に熟達するように努力し、検査時には子どもたちとレポートをつけることに意を用い、更に正確を期すため、カセットテープによる録音、カメラ撮影等も使用して、記録と判定に資料として役立てた。精力的にとりくんだにもかかわらず被験児を得ることに苦勞し、第1期作業は1979年3月初旬より7月中旬までかかり、第2期作業は8月中旬より9月中旬の期間を必要とした。

3. 検査方法と集計方法

検査方法は、時間的制約と煩雑さ、更に、通過率を見ることが目的であったので、各期に該当する年令児にその期の検査項目のみを試行していった。集計方法は、単純に行い、統計的処理は行わない。というのも、今回のデータだけでは、統計処理を行うには不足しているし、時間的ゆとりもなかったからである。妥当性・信頼性に関する考察は今後の課題にしたい。

III 結 果

(記号の説明) ○：通過率70%以上の検査項目

●：通過率30%以下の検査項目

△：成功率70%以上の被験者

▼：成功率30%以下の被験者

ここで用いた70%、30%の有意性について特別な根拠はない。我々が結果の処理上50%を軸に前後20%ずつの妥当と思われる範囲としたにすぎないのである。

3期 (10~13W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
仰臥位	腕が対称姿勢をとる事あり	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
	大抵, 頭を半ば側転のまま	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
座位	(支)頭を前傾位置に保持不安定	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
伏臥位	長く頭を上げている(区域II)	-	-	+	+	+	-	-	-	-	+	0.4	
	前膊と肘で支える	-	-	+	+	+	-	-	-	-	+	0.4	
	尻を落としている	+	+	-	+	+	-	+	+	+	+	0.8	○
仰臥位	両手開いたまま	-	+	-	-	+	-	+	+	+	+	0.6	
環	(仰)胸上に出すとすぐ注視する	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
	(仰)側方より180°追視する	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	0.3	●
ガラガラ	持たすとしっかり握る	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	0.9	○
対人的行動	社会的刺激に応じて発声する	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	0.9	○
遊戯	(仰)手を上に出してながめる	+	+	-	+	+	-	-	+	+	+	0.7	○
	(仰)自己の衣服をひっぱる	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	0.8	○
成功率	(13)	0.61	0.76	0.69	0.92	0.92	0.38	0.69	0.69	0.76	1.0	0.746 0.742	

△ △ △ △ △ △ △ △

5期 (18~21W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考	
座位	(支)頭を前傾位置に保持安定	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
	(引き起こし)頭おくれれない	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+	+	+	0.7	○
伏臥位	両腕を伸ばして体をつっぱる	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.9	○
	手で床をひっかく	-	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+	0.75	○
ガラガラ	手の近くに出すとつかむ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	0.95	○
	もぎとろうとしてもはなさぬ	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.95	○
積木	持たすととにかくつかむ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
山積木	手にふれたらつかむ	+	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	0.75	○
鏡	自己の像にほほえみかける	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	+	-	+	+	0.5	
対人的行動	「イナイ、イナイ、バー」に反応して声を出して笑う	-	+	-	-	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+	-	+	+	+	+	0.6	
成功率	(10)	0.6	0.9	0.7	0.7	1.0	1.0	1.0	0.8	0.5	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8	0.5	1.0	0.8	1.0	0.81 0.81		

△ △

4期 (14~17W+6)

検 査 項 目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
仰臥位	腕が大抵対称姿勢	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
	大抵頭を中央のまま	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
座 位	(支)頭を前傾位置に保持安定	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.9	○
伏臥位	長く頭上げ(区域Ⅲ)	+	+	-	+	-	-	+	-	+	+	0.6	
	両脚伸している	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	0.9	○
仰臥位	両手まげてふれ合わす	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	0.6	
	自己の体, 髪, 衣服をいじる	-	+	+	+	-	+	+	-	+	+	0.7	○
環	胸上に出すと腕を動かす(一分示)	+	+	-	+	-	+	+	-	+	-	0.6	
ガラガラ	片手のガラガラをふりならす	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.9	○
	両手に持たすと持ってられる(3S以上)	+	+	+	+	-	+	-	+	+	+	0.8	○
積 木	交互に注視する(自分の手と積木)	-	-	-	-	-	-	+	-	+	+	0.3	●
小 鈴	注視する	+	+	-	+	-	-	-	-	+	-	0.4	
対人的 行 動	自分から他人にほほえみかける	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	0.7	○
	引き起こす時発声又は笑う	+	+	-	+	-	+	+	-	+	+	0.7	○
	相手になるのをやめると不機嫌になる	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	0.8	○
遊 戯	(仰)自分の衣服をひっぱり顔を掩う	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-	0.3	●
成功率	(16)	0.81	0.93	0.62	0.93	0.37	0.62	0.62	0.43	0.87	0.75	0.7 0.695	
		△	△		△					△	△		

7期 (26~29W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
仰臥位	床から頭を上げる事あり	-	+	-	+	+	+	+	-	-	+	0.6	
座位	前傾姿勢手をついてしばらく坐る	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	0.9	○
	ごくしばらく手をつかずに坐れる	-	+	+	+	-	-	+	+	-	+	0.6	
立及歩	(支)体重の大部分支う	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	0.8	○
	(支)活発に脚ではねる	-	+	-	+	+	+	+	+	-	+	0.7	○
伏臥位	頭に布をかぶせると手で取去る(頭全部)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	0.9	○
環	片手を近よせる	+	+	-	-	+	+	+	+	-	-	0.6	
ガラガラ	両手に持ってふりならす	+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	0.8	○
積木	手から手へともちかえる	-	-	+	-	-	+	-	+	-	-	0.3	●
	両手にもちうる(もたす)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
山積木	片手にもち、もう1個つかむ	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	0.9	○
小鈴	熊手状かきよせる	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
鐘	机にうちつける	-	+	+	-	+	-	-	+	+	+	0.6	
紐つき環	先づ環の方へ手を伸す	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
鏡	手を伸して自己の像を叩く	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+	0.7	○
食事	半固形物をかなり食べている	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
遊戯	(仰)足指を口辺に近づける(入れる)	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.8	○
成功率	(17)	0.52	0.88	0.82	0.76	0.82	0.88	0.82	0.94	0.52	0.76	0.7764 0.772	

△ △ △ △ △ △ △ △ △

9期 (34~37W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
座位	前傾しても手を使わずに体をおこす	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+	0.8	○
	10分以上、ひとりで坐る(安定)	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
立及歩	(手すり)つかまらずと立てる	+	-	+	+	+	-	+	-	+	-	0.6	
積木	手中の積木で机上の積木をおしたりたたいたりする	-	+	+	-	+	+	+	-	-	-	0.5	
	指尖把握	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
コップと積木	積木をもちコップにおしつける	+	-	+	-	-	+	-	-	-	-	0.3	●
小鈴	鉈状把握	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	0.8	○
	とにかく手でつかみもち上げる	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
瓶と小鈴	先づびんへ手を近づける	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
紐つき環	紐をいじる	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.8	○
対人的行動	「マンマ」という声を出す	-	+	-	-	-	+	-	-	-	+	0.3	●
食事	自分でビスケットをもち、かんで食べる	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
成功率	(12)	0.75	0.83	0.91	0.75	0.83	0.83	0.83	0.25	0.75	0.66	0.7416 0.739	

△ △ △ △ △ △ △ △ ▼ △

10期 (38~41W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
座位	自分ひとりで伏臥となる	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.9	○
	いつまでもひとりで坐る	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
立及歩	(手すり)つかまって立ち上る	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.8	○
伏臥位	匍行する	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.9	○
積木	両手の積木をおしつけ合う	+	+	-	+	+	-	+	-	+	+	0.7	○
	下手だが自らはなすことが出来る	+	+	-	+	+	-	+	+	+	+	0.8	○
コップと積木	手を入れ中の積木にふれる	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
小鈴	釘抜状把握(不完全)	-	-	+	+	-	+	-	+	+	-	0.5	
	人差指を伸して鈴へ近よせる	-	-	+	+	+	-	+	+	+	-	0.6	
瓶と小鈴	先づ小鈴へ手を近づける	-	-	+	-	-	-	+	-	+	+	0.4	
鐘	ふりならす	+	-	+	-	+	+	+	+	+	+	0.8	○
	柄をつかむ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
紐つき環	容易に紐をつかむ	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.9	○
対人的行動	自分の名に反応する	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
	「バイバイ」に反応する	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.8	○
成功率	(15)	0.6	0.73	0.86	0.86	0.86	0.73	0.6	0.86	1.0	0.86	0.806 0.796	

△ △ △ △ △ △ △ △ △

13期 (50~53W+6)

検査項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
立及歩	(片手支)歩く	-	-	+	+	-	+	+	-	+	+	0.6	
積木	つもうとする(不成功)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	0.8	○
コップと積木	(まね)コップの中に積木を入れる	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.9	○
瓶と小鈴	入れようとする(不成功)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.9	○
紐つき環	紐でぶらさげる	+	-	-	-	-	-	+	+	+	+	0.5	
ハメ板	円孔のところを視る	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.9	○
鏡	ボールをおしつける	+	-	-	-	+	-	+	+	+	-	0.5	
対人的行動	頂だいに反応, わたす	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0.9	○
成功率	(8)	0.87	0.62	0.75	0.75	0.12	0.75	1.0	0.87	1.0	0.75	0.75 0.673	
		△		△	△	▼	△	△	△	△	△		

0才児 (10~53W+6) の結果

○ : 通過率70%以上の検査項目数	= $\frac{99}{135}$	= 73.33%
● : 通過率30%以下の検査項目数	= $\frac{8}{135}$	= 5.925%
△ : 成功率70%以上の被験者数	= $\frac{91}{120}$	= 75.83%
▼ : 成功率30%以下の被験者数	= $\frac{3}{120}$	= 2.5%

15期 (1:0~1:2+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 積木の塔2個	+	-	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	+	+	-	+	+	+	-	+	0.55	
b Pf-B丸棒(例後)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+	+	+	0.75	○
c 瓶と小鈴:入(例無)	+	-	+	+	-	-	+	-	+	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	0.65	
d ハメ板:円(例後)	-	-	+	+	-	-	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.65	
e なぐり書き(例後)	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	0.75	○
f 2個のコップ2/3	-	+	+	-	-	+	-	-	-	-	+	+	+	-	-	+	+	-	+	+	0.5	
成功率 (6)	0.66	0.5	1.0	0.5	0	0.5	0.83	0.16	0.5	0.33	0.83	0.66	0.66	0.66	0.33	1.0	1.0	0.83	0.83	1.0	0.6416 0.639	
			△		▼		△	▼			△					△	△	△	△	△		

16期 (1:3~1:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 積木の塔3個	+	-	-	-	-	+	+	-	+	+	-	-	+	-	+	-	-	+	+	+	0.5	
b 瓶と鈴出(例無)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+	+	0.8	○
c ハメ板円(回)1度で	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	+	+	+	0.3	●
d なぐり書き(例無)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
e 3個のコップ2/3	+	-	+	+	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	-	-	-	+	+	0.55	
成功率 (5)	0.8	0.4	0.6	0.8	0.4	1.0	0.8	0.6	0.8	0.6	0.2	0.6	0.6	0.4	0.8	0.2	0.4	0.6	1.0	1.0	0.63 0.623	
	△			△		△	△		△		▽				△	▽			△	△		

17期 (1:6~1:8+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 積木の塔5個	+	-	-	+	-	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	+	0.55	
b Pf-B角板(例後)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
c 身体各部3/4	+	-	-	-	-	+	+	-	-	+	+	-	+	+	-	+	+	+	-	-	0.5	
d 絵カード4/6	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	+	-	+	+	-	+	+	+	-	-	0.5	
成功率 (4)	1.0	0.5	0.25	0.5	0.25	0.75	1.0	0.5	0.5	0.75	1.0	0.25	0.75	1.0	0.5	0.75	1.0	0.75	0.25	0.5	0.6375 0.6375	
	△		▽		▽	△	△			△	△	▽	△	△		△	△	△		▽		

18期 (1:9~1:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 積木の塔6個	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	0.8	○
b ハメ板全(例無)	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.85	○
c ハメ板全(回)4度	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.85	○
d 折り紙I	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	+	0.2	●
e 円錯画(例後)	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.95	○
f 絵単語 I 3/6	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-	0.15	●
成功率 (6)	0.5	0.66	0.66	0.5	0.83	0.66	0.33	0.83	0.66	0.5	0.33	1.0	0.66	0.66	0.66	1.0	0.16	0.66	0.5	0.83	0.6333 0.6295	
					△			△				△				△	▽			△		

19期 (2:0~2:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 積木の塔8個	+	+	+	-	-	+	-	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-	+	-	+	0.6	
b 汽車の模倣:完	+	-	-	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	0.55	
c Pf-B角板(例無)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
d 形の弁別 I 1/5	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	0.85	○
e 横線模倣(例後)	-	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.75	○
f 縦線模倣(例後)	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0.95	○
g 2数復唱1/3	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	0.1	●
h 大小比較3/3	-	-	-	-	+	+	-	-	+	-	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	0.3	●
i 絵単語 I 5/6	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	0.2	●
成功率 (9)	0.55	0.44	0.33	0.44	0.55	0.88	0.44	0.88	0.55	0.66	0.44	0.77	1.0	0.44	0.44	0.66	0.77	0.55	0.33	0.55	0.5888 0.5835	
						△		△				△	△				△					

20期 (2:6~2:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		通過率	備考
a 家の模倣(例無)	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-		0.3	●
b 形の弁別 I 3/5	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+		0.9	○
c 折り紙II	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-		0.3	●
d 円(例無)	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-		0.4	
e 十字模倣1/3(例後)	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-		0.6	
f 記憶板2/3	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+		0.6	
g 3数復唱1/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		0	●
h 長短比較3/3	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-		0.4	
i 絵単語II	+	+	+	+	+	-	-	-	+	-		0.6	
成功率 (9)	0.77	0.77	0.77	0.88	0.44	0.33	0	0.11	0.22	0.22		0.455	
	△	△	△	△				▽	▽	▽	▽	0.451	

21期 (3:0~3:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 門の模倣(例後)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	0.1	●
b 四角構成(例後)	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	0.35	
c 形の弁別 II 8/10	-	+	+	+	+	+	-	+	-	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-	0.55	
d 折り紙III	-	+	+	+	-	-	+	+	-	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-	0.6	
e 十字(例無) 1/3	-	+	-	+	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	0.6	
f 短文復唱 I 1/3	-	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	0.2	●
g 性の区別	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	+	+	+	0.75	○
h 姓名	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1.0	○
i 了解 I 2/3	-	+	+	-	-	-	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+	-	0.4	
成功率 (9)	0.22	0.77	0.55	0.55	0.33	0.44	0.66	0.55	0.44	0.55	0.44	0.88	0.22	1.0	0.22	0.44	0.11	0.66	0.66	0.33	0.505	
	▽	△										△	▽	△	▽	▽					0.501	

22期 (3:6~3:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 門の模倣(例無)	-	-	+	+	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	+	+	0.3	●
b 形の弁別 II 10/10	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	+	-	0.6	
c 正方形1/3(例無)	+	+	-	+	-	-	+	-	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	+	0.6	
d 錘の比較(例後)2/2	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	0.25	●
e 4数復唱1/3	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+	-	+	+	+	-	+	+	+	-	0.65	
f 4個の玉4まで	-	+	+	-	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	0.75	○
g 積木えらび:3	+	-	+	+	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	+	0.5	
h 美の比較3/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	0.1	●
成功率 (8)	0.37	0.5	0.75	0.62	0.12	0.37	0.62	0.12	0.37	0.37	0.87	0.12	0.75	0.5	0.5	0.37	0.37	0.37	0.62	0.62	0.46875	
	△				▽			▽				△	▽	△							0.465	

23期 (4:0~4:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
a 四角構成3/3(例無)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	●
b 人物完成:3部	+	+	+	+	+	-	+	-	-	-	0.6	
c 鍾の比較2/3(例無)	+	-	+	-	+	-	+	-	+	+	0.6	
d knox-Cube 2/12	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	0.9	○
e 13の玉:10まで1/2	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-	0.7	○
f 積木えらび:4	-	-	+	+	-	-	-	+	+	-	0.4	
g 4貨名3/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	●
h 遺漏発見3/4	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	0.2	●
i 了解II2/3	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-	0.3	●
成功率 (9)	0.44	0.33	0.55	0.55	0.55	0.22	0.44	0.44	0.33	0.22	0.411 0.407	

24期 (4:6~4:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a 三角模写1/3	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	+	+	+	-	-	+	-	0.45	
b Knox-Cube 3/12	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	0.75	○
c 指の数 右左	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	+	+	+	+	-	-	-	0.35	
d 13の玉 完1/2	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	-	-	+	-	+	+	+	+	+	0.75	○
e 積木えらび:6	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	+	-	-	-	+	+	-	0.35	
f 左右区別:全逆	-	-	+	+	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.7	○
g 色の名3/4	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	0.9	○
h 定義(用途)4/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	0.05	●
成功率 (8)	0.5	0.75	0.5	0.62	0.25	0.75	0.5	0.37	0.37	0.12	0.75	0.25	0.5	0.87	0.62	0.87	0.5	0.5	0.75	0.37	0.5375 0.5355	

25期 (5:0~5:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
a B&DI 1/5	-	+	+	-	+	-	-	+	-	+	0.5	
b 人物完成:6部	+	+	+	+	-	-	+	-	+	-	0.6	
c Knox-Cube 4/12	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	0.8	○
d 指の数 右左全	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	0.3	●
e 5以下の加算2/3	+	+	+	-	+	+	-	-	-	+	0.6	
f 積木えらび:8	+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	0.3	●
成功率 (6)	0.66	1.0	0.83	0.33	0.66	0.33	0.5	0.33	0.16	0.33	0.5166 0.513	

26期 (5:6~5:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
a 階段再成：完	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
b 玉 連1/2	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+	0.8	○
c Knox-Cube 5/12	+	-	-	+	-	-	+	-	+	-	0.4	
d 右左区別：正	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	0.7	○
e 遺漏発見4/4	+	+	-	+	+	+	-	+	-	+	0.7	○
f 了 解Ⅲ2/3	-	+	+	+	+	-	+	-	-	+	0.6	
成 功 率 (6)	0.83	0.83	0.66	1.0	0.66	0.33	0.83	0.33	0.66	0.66	0.6833 0.679	
	△	△		△			△					

27期 (6:0~6:5+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a B&DI 2/5	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
b 菱形模写2/3	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.9	○
c 短文復唱Ⅱ	+	+	-	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-	+	-	-	+	-	+	-	0.4	
d 5以下の加算3/3	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	-	+	+	0.85	○
e 色の名4/4	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	0.95	○
f 絵の叙述2/3	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	+	0.2	●
成 功 率 (6)	0.83	0.83	0.83	0.66	1.0	0.66	0.66	0.83	0.83	0.66	0.16	0.66	0.66	1.0	0.66	0.5	0.83	0	0.83	0.83	0.7 0.696	
	△	△	△		△			△	△		▼		△	△		△	▼	△	△	△		

28期 (6:6~6:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	通過率	備考
a B&DI 3/5	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	+	-	+	0.75	○
b 人形完成：8部	+	+	-	-	-	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	-	-	+	-	+	0.6	
c Knox-Cube 6/12	+	-	+	+	+	-	-	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	+	0.55	○
d 5数復唱1/3	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-	-	0.35	
e 打叩計数3/3	+	-	-	-	+	+	+	+	-	+	+	-	-	+	-	-	+	+	-	+	0.55	
成 功 率 (5)	1.0	0.6	0.4	0.4	0.8	0.8	0.4	0.6	0.4	0.8	0.6	0.6	0.4	0.4	0.6	0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.56 0.56	
	△				△	△				△						▼		△	▼	△		

29期 (7:0~7:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
a B&DI 4/5	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	0.5	
b 5個の鐘2/3	-	+	+	-	-	-	+	+	-	+	0.5	
c Knox-Cube 7/12	+	-	+	+	+	-	+	+	-	+	0.7	○
d 釣 銭2/3	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	0.5	
e 数逆唱 20から	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	0.5	
f 時 日3/4	+	+	+	-	-	+	+	+	+	+	0.8	○
g 書 取	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	0.6	
h 語の差異2/3	+	-	-	-	-	-	-	+	-	+	0.3	●
成 功 率 (8)	0.87	0.37	0.75	0.5	0.12	0.25	0.87	1.0	0.12	0.62	0.55 0.547	
	△		△		▼	▼	△	△	▼			

30期 (8:0~8:11+29)

検査項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	通過率	備考
a 財布さがし(円形)	-	-	+	+	-	-	+	-	-	+	0.4	
b 図形再生1/2	-	+	+	+	-	-	+	-	-	+	0.5	
c 4数逆唱1/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	●
d 名詞列挙	-	+	-	-	-	+	+	-	-	+	0.4	
e 三語一文2/3	-	+	-	-	+	-	+	-	+	+	0.5	
f 仲間外れ2/2	-	-	+	+	-	+	+	-	-	+	0.5	
成功率 (6)	0	0.5	0.5	0.5	0.16	0.33	0.83	0	0.16	0.83	0.3833	

1才~8才 (1:00~8:11+29) の結果

○ : $\frac{\text{通過率70\%以上の検査項目数}}{\text{全項目数}} = \frac{36}{110} = 32.72\%$

● : $\frac{\text{通過率30\%以下の検査項目数}}{\text{全項目数}} = \frac{24}{110} = 21.81\%$

△ : $\frac{\text{成功率70\%以上の被験者数}}{\text{全被験者数}} = \frac{80}{260} = 30.76\%$

▼ : $\frac{\text{成功率30\%以下の被験者数}}{\text{全被験者数}} = \frac{37}{260} = 14.23\%$

総合結果 (0~8才)

○ : $\frac{\text{通過率30\%以上の検査項目数}}{\text{全項目数}} = \frac{135}{245} = 55.10\%$

● : $\frac{\text{通過率30\%以下の検査項目数}}{\text{全項目数}} = \frac{32}{245} = 13.06\%$

△ : $\frac{\text{成功率70\%以上の被験者数}}{\text{全被験者数}} = \frac{171}{380} = 45.00\%$

▼ : $\frac{\text{成功率30\%以下の被験者数}}{\text{全被験者数}} = \frac{40}{380} = 10.52\%$

IV 考 察

前掲資料でわかるように、各段階の各検査項目に、その通過率に大きな差があり、また各被験者の成功率についてもバラツキがあるようである。標本数も少なく統計的処理もしていないので、ここで直ちに結論を出すことはできないが、結果を概観した上でいくつかの指摘を行いたい。

第1に、通過率70%以上の項目が0才児の場合99項目(73.33%)もあり、1才児以上では36項目(32.72%)である。反対に通過率30%以下の項目は0才児の場合8項目で全検査項目の5.9%、1才児以上は、24項目、21.81%を示している。中でも1才児以上では、通過率0のものが4項目もあり、これらの項目も含めて、検査内容について再検討を試みる必要があると思われる。

通過率の低かった8項目と24項目を見て全体的傾向をまとめてみよう。

(1) 目と手の協応動作に問題がある。視覚の発達と大脳の働きとの関係がうまく結びついていくのは非常に難しいことのように見える。

(2) 運動性(立つ、座る)の高い通過率に対して、細かな手の動きが十分に分化してっていない。これは、現在の家庭生活内での諸問題と関連しているように思われる。

(3) 創造的に答を作成していくものが出来ない。絵の叙述・定義・了解・遺漏発見などに見られ、子どもたちの能動性の劣弱化がうかがえる。

(4) 数量的概念の操作が出来ない、3.4数の復唱・逆唱・積木えらび・指の数などである。

(5) 複雑な形の再構成、あるいは、形の弁別が出来ない。四角構成、積木による家や門の模倣、三角模写、折り紙などである。これは抽象的事物への見通しの困難さを示していると思われる。

(6) とくに意外な結果であったのは、日常生活上での知識を問うものが出来ないということであった。例えば、絵単語、遺漏発見、4貨名、指の数などである。生活と教育の遊離であろう。

(7) 総じて、動作性よりも、言語性の項目の通過率が低いようである。自らが答を限定し、つくり出していくものが出来ないようである。

前述したように通過率0である数の復唱、逆唱、四角構成、定義、4貨名、積木による門の模倣、絵単語などは、項目として再検討を必要とするだろう。生沢氏の著作に収録されている京都児童院の資料でも、四角構成の通過率は当該児グループでは、0.208、4数復唱では0.375、定義では、0.442、絵の叙述では0.542になっている。また遠城寺式では四角構成に類した問題はK式検査よりも、1年遅く出ているし、定義については1年半後に出ているという点から見ても、検査項目の再検討を試みねばなるまい。他の検査法も実施して、その相関を出し、妥当性を出す必要があると思われる。

第2に、成功率についてであるが、このK式検査は、50%の成功率を軸として作成されているが、1才児以上の場合、成功率70%以上が30.76%、成功率30%以下が14.23%となっている。0才児の場合は、成功率70%以上が75.83%と高く、成功率30%以下は2.5%と極端に低くなっている。この点から、0才児の検査内容をいくらか見直す必要があるのではないだろうか。今回、我々は、子どもに対し当該年令の検査項目のみの検査を行っており、その前後の検査を行っていないという問題点もあり、次回には、前後の検査を含めて行い、発達診断の方法としての妥当性をさらに追求したい。

おわりに

今回報告を行うに当っては、検査に当たった障害児教育学科4年生 池田あゆ子・井上順子・大園順子・水光泰代・福留恵子・村山順子・山田節子・良峰玲子の8名に大きく依拠している。感謝の意を表したい。さらに検査を快く許可して下さった、草牟田ベビーホーム、よい子の家、キシヤバ託児センター、笹貫子供園、ピンポンパン託児所、賢母育児園、ポニー乳児園、同胞保育園、タン

ポポ保育園, ひまわり託児所, 市立真砂保育園, 玉里保育園, 鹿児島乳児院, 鹿児島市立乳児院, 加治木保健所, 中央保健所, 谷山保健センター, 鹿大病院授乳所, 鹿大あおぞら保育園, 附属幼稚園, 附属小学校, その他個人的に協力下さったお母さま方に, お礼を申し上げます。

さらに, あまり楽しくない検査につきあってくれた多くの子どもさんたちに感謝します。

(注1, 2) 秋葉英則他著 「小中学生の発達と教育」(第2章 長嶋瑞穂・寺田ひろ子「子どもの発達段階」)より

(注3, 5) 田中昌人著 「発達における『階層』の概念導入について」京大教育学部紀要23.

田中昌人他著 「すべての子どもの発達の権利をかちとるために」1966. 大阪・京都・滋賀発達保障研究会

(注4) ヴィゴツキー著 河崎道夫訳 「子どもの年齢的区分の問題」1974. (『ソビエト心理学研究』第17.18号)

(注6) 長嶋瑞穂 「発達研究の今日的課題」として

「子どもは集団活動における他の子どもやおとなと共感をもった共同活動をする時, 一段階すすんだ可逆操作を可能にする。可逆操作が高次化する過程が移行期であり, その時期が質的転換期である。発達の源泉が原動力によって内在化されて新しい原動力(可逆操作)に転化する」と述べている。(注1の秋葉他著に所載)

参 考 文 献

- 1) A. Gesell, C. S. Amatruda. 佐野, 新井訳「発達診断学」(日本小児医事出版社)
- 2) A. Gesell. 山下訳「乳幼児の心理学」(家政教育社)
- 3) 生沢雅夫 「知能発達の基本構造」(風間書房)
- 4) 「精神薄弱児用テストの作成」(近江学園 1960)
- 5) 「K式乳幼児発達検査の手引き」(京都市児童相談所紀要2, 1962)
- 6) ヴェンゲル A. A. 大井・鎌田・八幡訳「障害幼児の発達診断」(新読書社)
- 7) 牛島義友他著 「乳幼児精神発達検査」「幼児総合精神検査」(金子書房)
- 8) 遠城寺宗徳著 「乳幼児分析的発達検査法」(慶応通信)
- 9) 津守 真他著 「乳幼児精神発達診断法」(0~3才まで, 同じく3~7才まで)(大日本図書)
- 10) 秋葉英則他著 「小中学生の発達と教育」(創元社)
- 11) 古賀行義編 「MCC ベビーテスト」(同文書院)

(1979年10月15日 受理)